

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

兵庫県 朝来市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	72.94	17.41	91.47	3,140

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,165	403.06	72.36
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,043	2.51	2,009.16

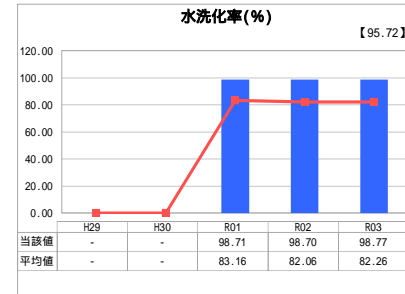
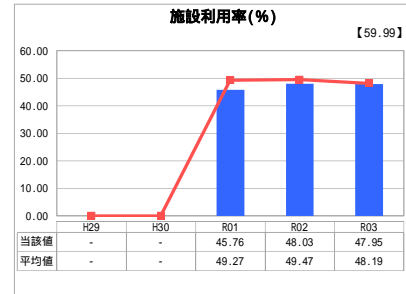
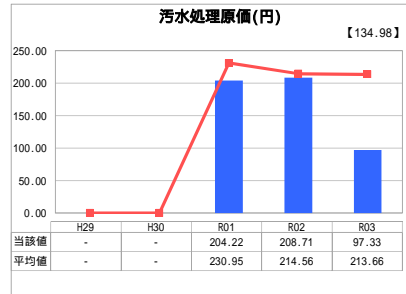
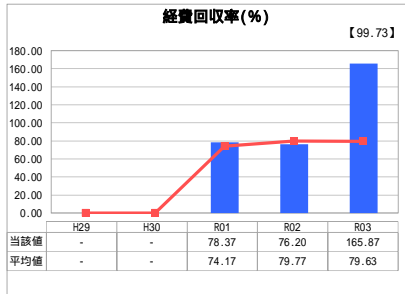
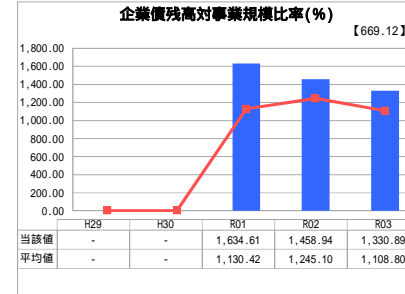
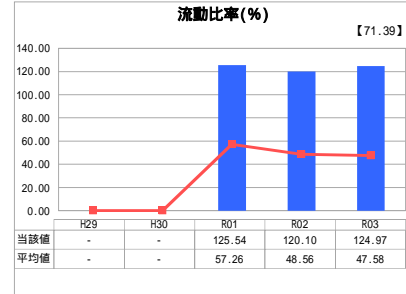
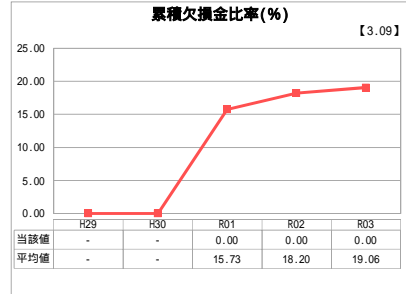
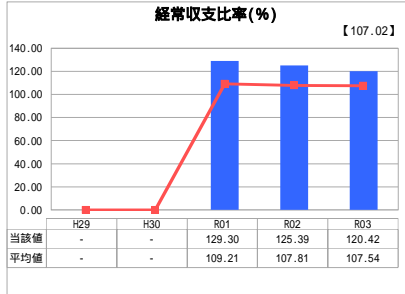
**グラフ凡例**

■ 当該団体値(当該値)

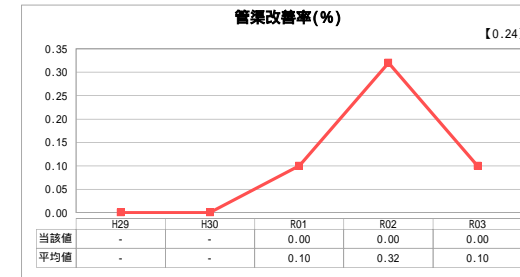
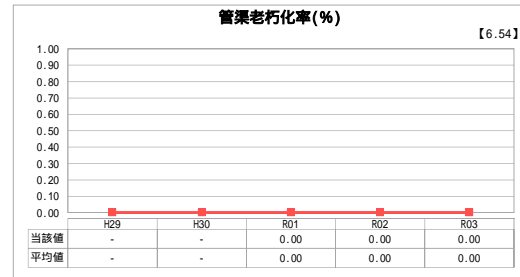
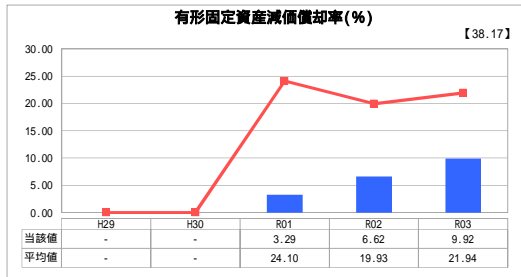
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【単年度の収支】  
収益的収支比率は100%を超えてはいるものの、更新投資等に充てる財源が充分とは言えない為、更なる費用削減が必要である。

【債務残高】  
企業債残高対事業規模比率は、平均値を大きく上回っており、老朽化する施設の更新時期が重なってくることで、更に上昇に転じることも予想される。

【料金水準の適切性】  
経費回収率は、繰入金の充当方法を変更したことにより、全国平均を上回っているが、更新投資等に充てる財源確保のためにも、更なる費用削減が必要である。

【費用の効率性】  
流動比率は100%を超えており、汚水処理原価についても類似団体平均値を下回っているが、更なる維持管理費の削減に努める。

【施設の効率性】  
施設利用率は、施設の統合などにより類似団体に近い数値となっているが、今後も計画的に施設の統合を図り、適切な施設規模を維持していく必要がある。

【使用料対象の捕捉】  
水洗化率は、類似団体平均値を大きく上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、平均値と比較して大きく下回っているが、平成7年12月の供用開始以来20年以上が経過し、施設の老朽化が進行しているため、ストックマネジメント計画の通り、計画的に施設更新を行う必要がある。

## 全体総括

本市の公共下水道事業は、使用料収入の大幅な伸びが期待できない状況にある一方で、施設建設から相当の年月が経過しており、施設の老朽化が進行している。

そのような中、施設の維持管理、施設更新を強化する必要があり、引き続き厳しい状況にある。

以上のようなことから、事業種別を超えた処理区の統廃合を視野に入れた事業推進を行い、経営の効率化を図っていくことが必要である。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。